

平成25年度病害虫発生予察情報 特 殊 報 第 1 号

平成25年8月26日
岩手県病害虫防除所

ルイスコメツキモドキ、クロアシコメツキモドキの発生について

1. 発生状況

- (1) 平成25年6月、岩手県西和賀町のわらびほ場でわらびの茎に虫害によると思われる食害痕が確認された。ほ場内のわらびの茎葉には光沢のある黒色の甲虫が多数認められた。
- (2) これらの甲虫が7月12日に岩手県病害虫防除所に持ち込まれたため、7月19日に現地調査を行い、これらの甲虫を農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した。
- (3) その結果、ルイスコメツキモドキ *Languriomorpha lewisi* (Crotch) 及びクロアシコメツキモドキ *Languriomorpha nigratarsis* (Waterhouse) であることが判明した。

2. 形態と生態

(1) 形態的特徴(図1)

ルイスコメツキモドキ：体長6～8.5mm。黒～黒褐色で銅～金銅色に光る。口部は赤褐色、脛節等も多少赤みがある。前胸背板は幅と長さが同長、前角は突出しない。

クロアシコメツキモドキ：体長8～11mm。ルイスコメツキモドキによく似るが、やや大型。前胸背板はやや幅広く、前角は突出する。



図1 ルイスコメツキモドキ(左)
とクロアシコメツキモドキ(右)

(2) 生態

両種とも北海道から九州にかけて生息が確認されている。

ルイスコメツキモドキ(図2)：現地では6月上旬から7月中下旬頃まで成虫が見られる。成虫は寄种植物の生きた葉柄表面をかじって小さな穴を開け、葉柄内に産卵する。卵は7月中旬頃から、葉柄内のあまり深くないところに見られ、その後若齢幼虫が見られる。孵化した幼虫は葉柄内を穿孔しながら組織を食べ、内部で蛹化、羽化する。年間の発生回数は不明である。

クロアシコメツキモドキ(図3)：生態は不明であるがルイスコメツキモドキと同様な生態であると推察される。



図2 ルイスコメツキモドキ



図3 クロアシコメツキモドキ



図4 わらび茎内のコメツキモドキの卵



図5 わらび茎内のコメツキモドキの若齢幼虫

(3) 被害

成虫がわらびの茎を食害し(図6)、これにより著しく商品価値が失われる。茎内では幼虫が食害する(図5)。

(4) 寄主植物

コメツキモドキ科の幼虫、はイネ、トウモロコシ、タケなどの単子葉植物、シダ植物の組織内を食害するとされているが、詳細は不明である。

ルイスコメツキモドキは宮崎県においてナチシダで幼虫、蛹、成虫が確認されている。クロアシコメツキモドキは北海道においてクサソテツ(こごみ)での加害報告がある。



図6 わらびの被害状況

3. 防除対策

- (1) 被害茎は、その中に幼虫が生息しているので、新たな発生源とならないように早期に除去する。
- (2) 防除薬剤はない。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】

TEL 0197(68)4427 FAX (68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/agri/>

農薬使用の際には (1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう